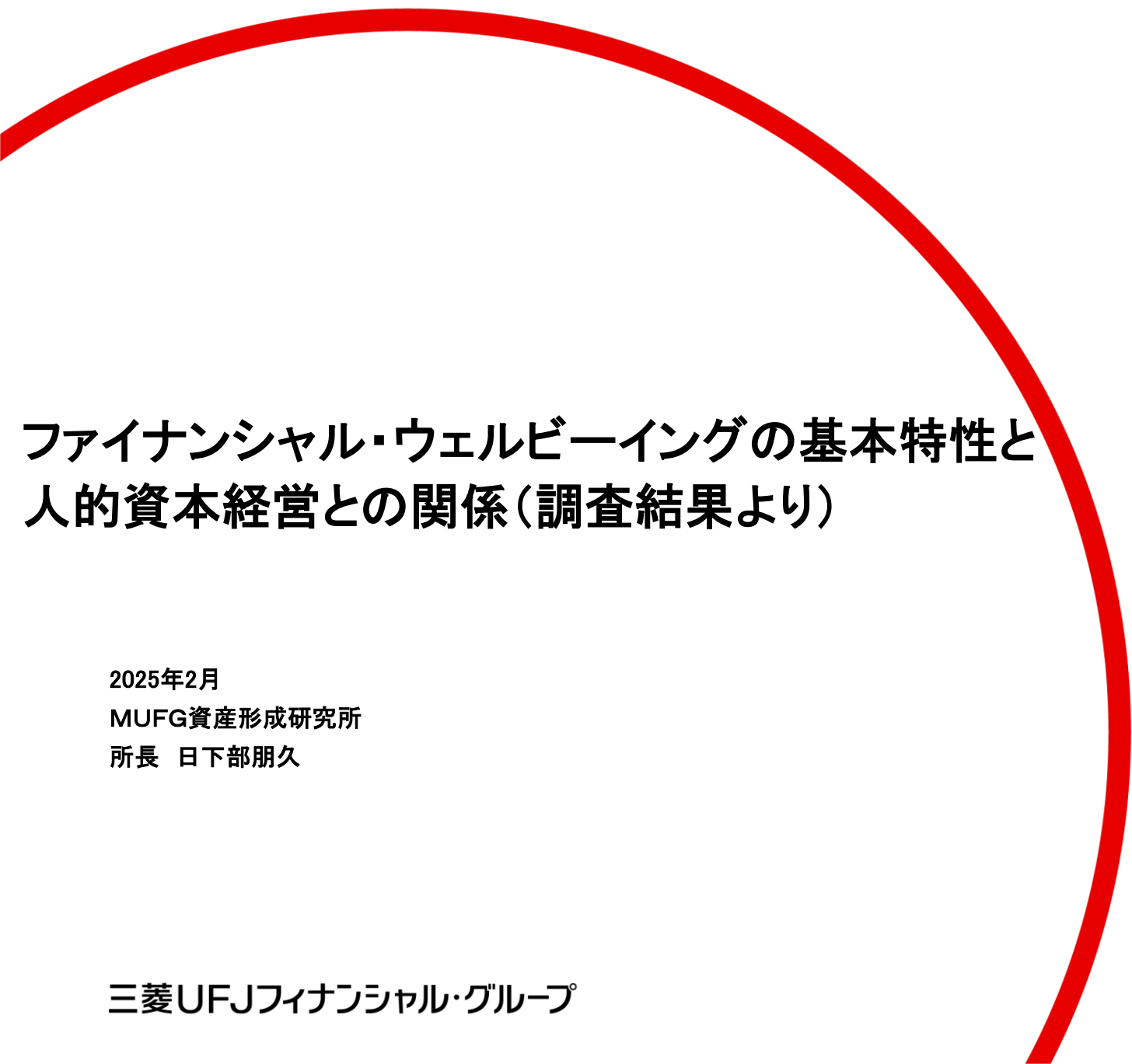




ファイナンシャル・ウェルビーイングの基本特性と 人的資本経営との関係(調査結果より)

2025年2月

MUFG資産形成研究所

所長 日下部朋久

三菱UFJフィナンシャル・グループ

世界が進むチカラになる。



目次

I. ファイナンシャル・ウェルビーイング(FWB)の基本特性	03
II. 人的資本経営との関係	12

I .ファイナンシャル・ウェルビーイング (FWB) の基本特性

本章の内容の詳細はこちらを参照ください(MUFG資産形成研究所HP)
https://www.tr.mufg.jp/shisan-ken/pdf/kinnyuu_literacy_26.pdf

MUFG資産形成研究所における「ファイナンシャル・ウェルビーイング」の定義

- 当研究所では、「ファイナンシャル・ウェルビーイング（以下、FWB）」を以下のとおり定義し、その達成のために必要と考える分野を以下のとおり区分する。



本調査におけるFWBスコアの算出方法

- 当研究所では、FWBの6分野に対する満足度を6点満点で評価。それらをもとに、総合的な「FWBスコア」を100点満点で算出した。

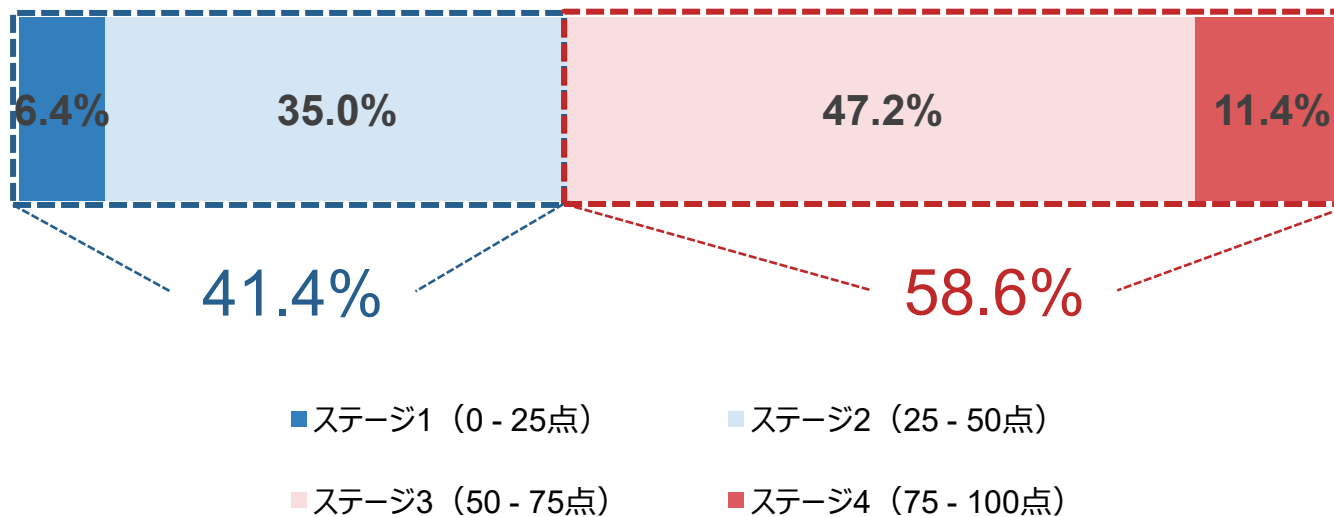


FWBスコアの分布状況

- FWBスコアを25点区切りでFWBステージ1～4に分類した
- 4割超が不満・不安寄りのスコア、6割近くが満足寄りのスコア

FWBスコアの分布状況

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)



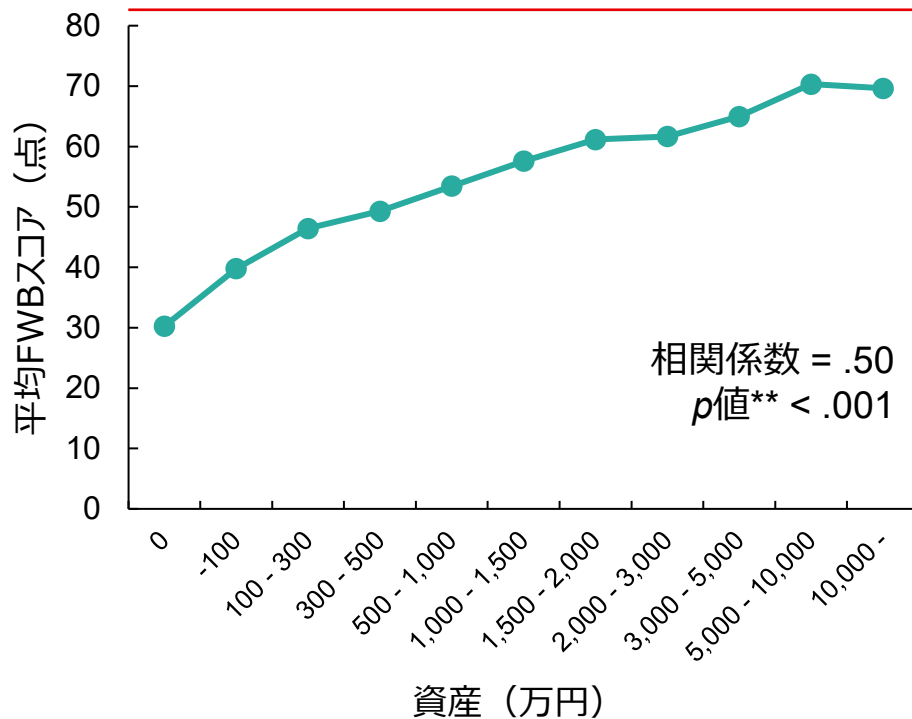
平均FWBスコア = 53.96

お金から見るFWBスコア①

- 金融資産保有額(資産)・個人年収額(年収)*とFWBスコアから、経済状況とFWBを考える
- 資産・年収ともに、増加するほどFWBスコアも高くなる。特に、資産との相関が強い

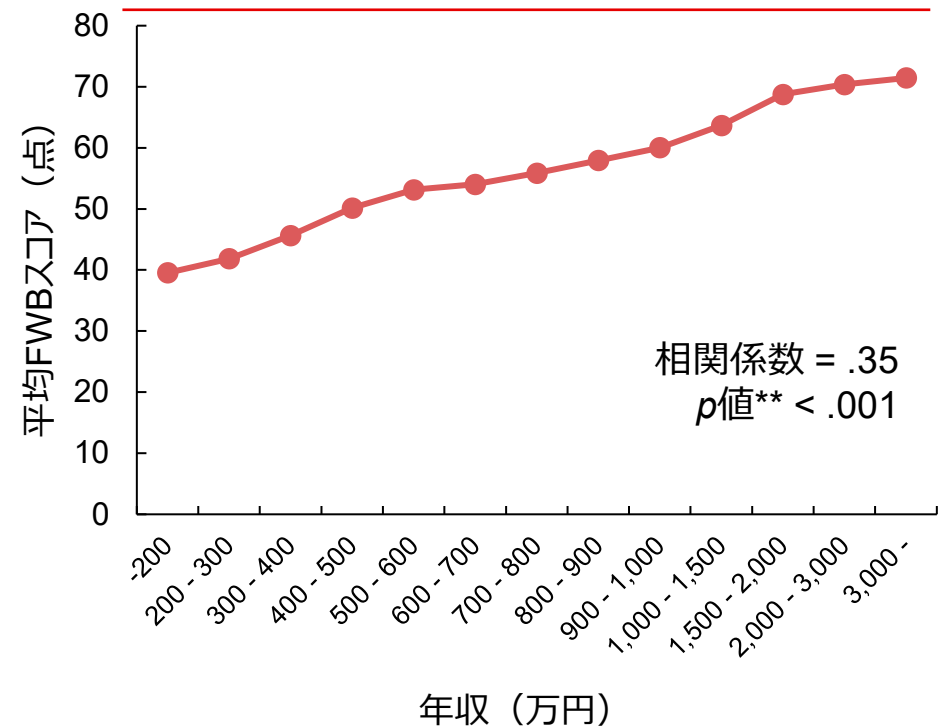
資産とFWBスコア

(回答者)企業勤務者のうち、資産について
有効回答が得られた者 (n = 7,201)



年収とFWBスコア

(回答者)企業勤務者のうち、年収について
有効回答が得られた者 (n = 7,601)

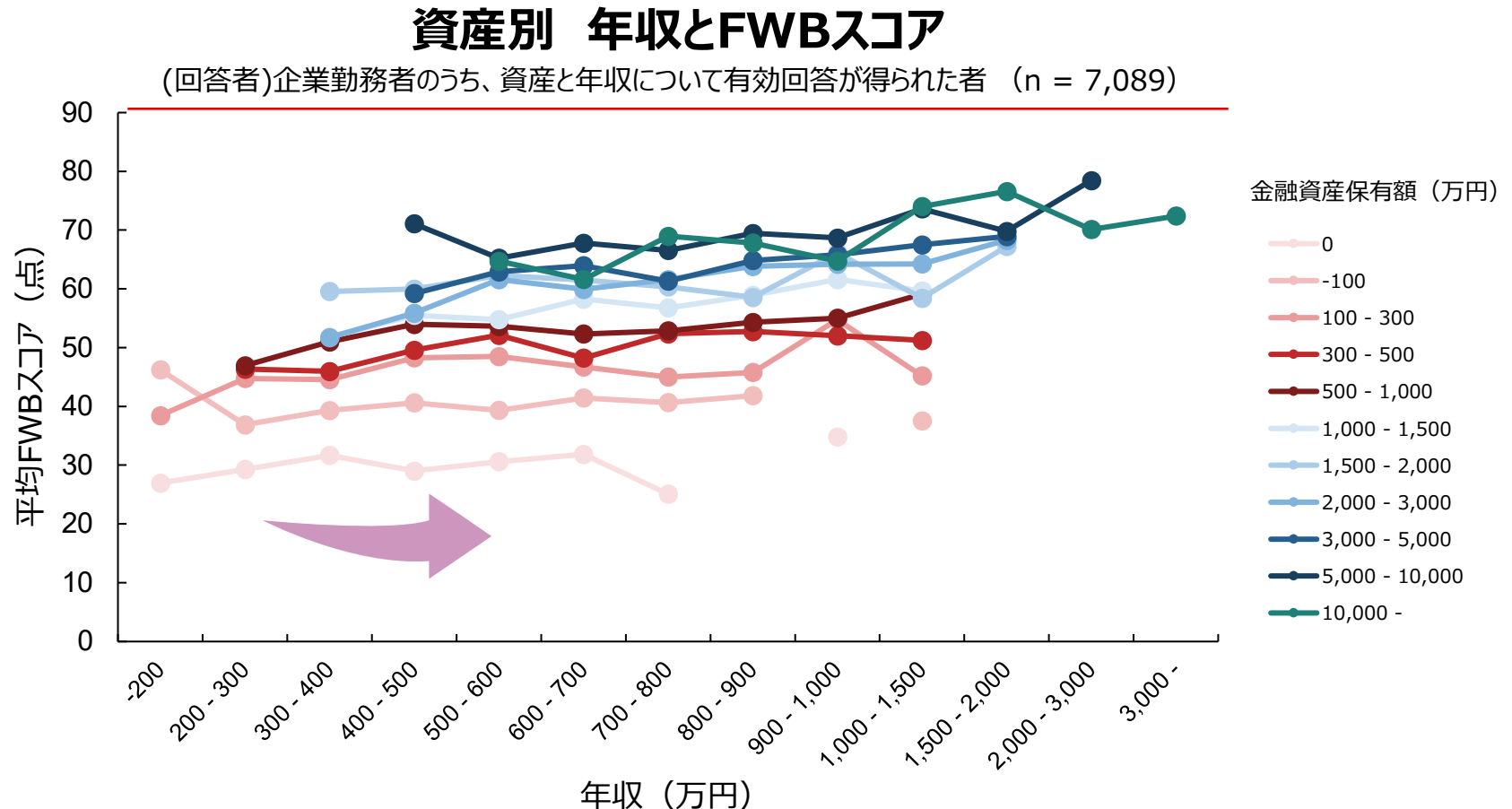


*それぞれ「保有する金融資産額帯」と「個人年収帯」を問う設問。

**「相関係数 = 0」と仮定したときに、該当の相関係数が偶然算出される確率。本研究では $p < .05$ を統計的に有意な結果であると解釈する。

お金から見るFWBスコア②

- 資産が同等の場合、年収が増えてもFWBスコアはあまり変化しない
(各グラフで右に移動してもFWBスコアの変化が小さい)



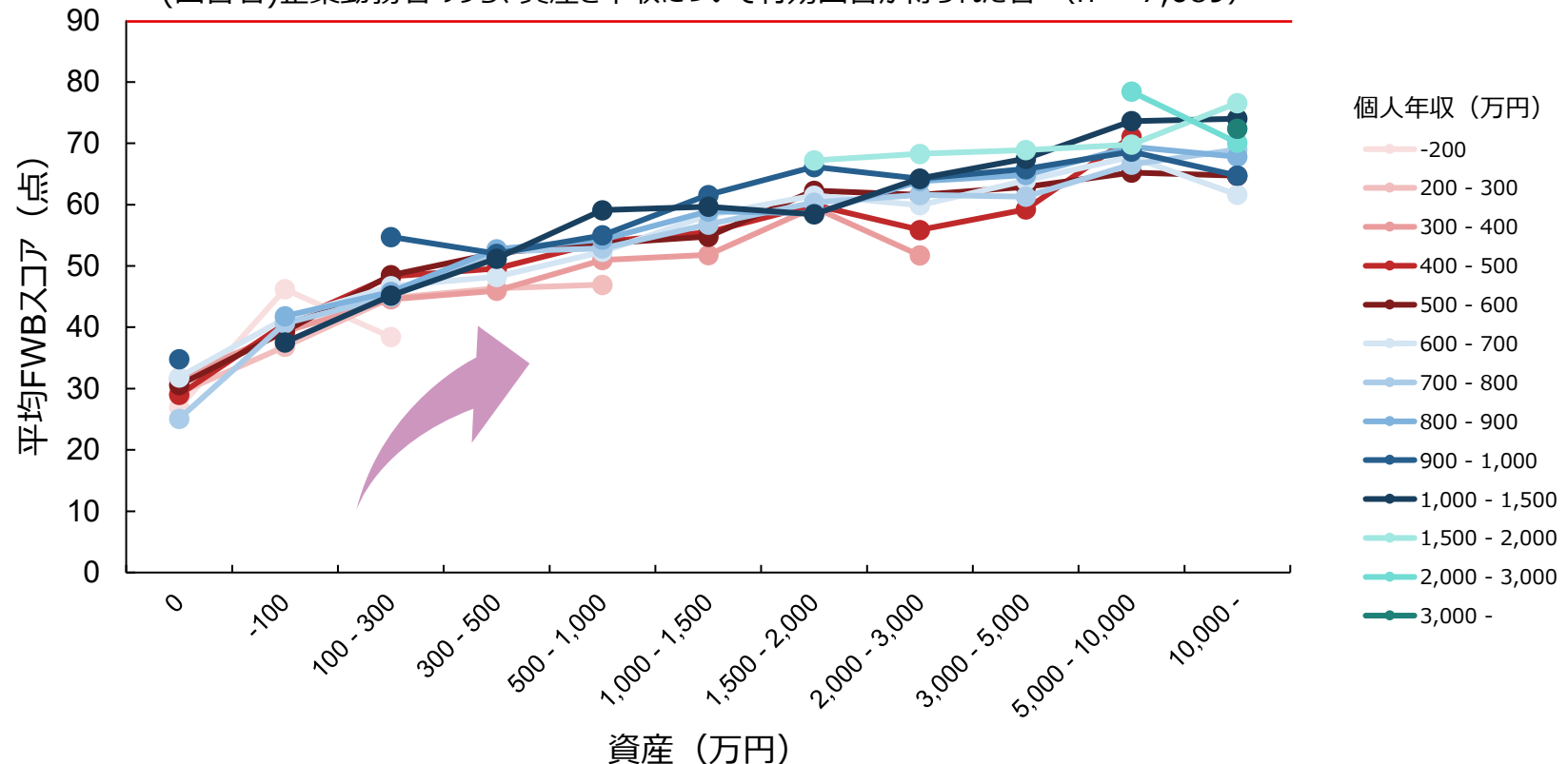
*資産と年収の各組合せのうち、該当サンプル数が10未満の組合せについては除外している

お金から見るFWBスコア③

- 年収が同等の場合、資産が多くなるほどFWBスコアは高くなる
(各グラフ右肩上がりになっている)
⇒ **FWBは資産とより密接な関係にあることを示唆**

年収別 資産とFWBスコア

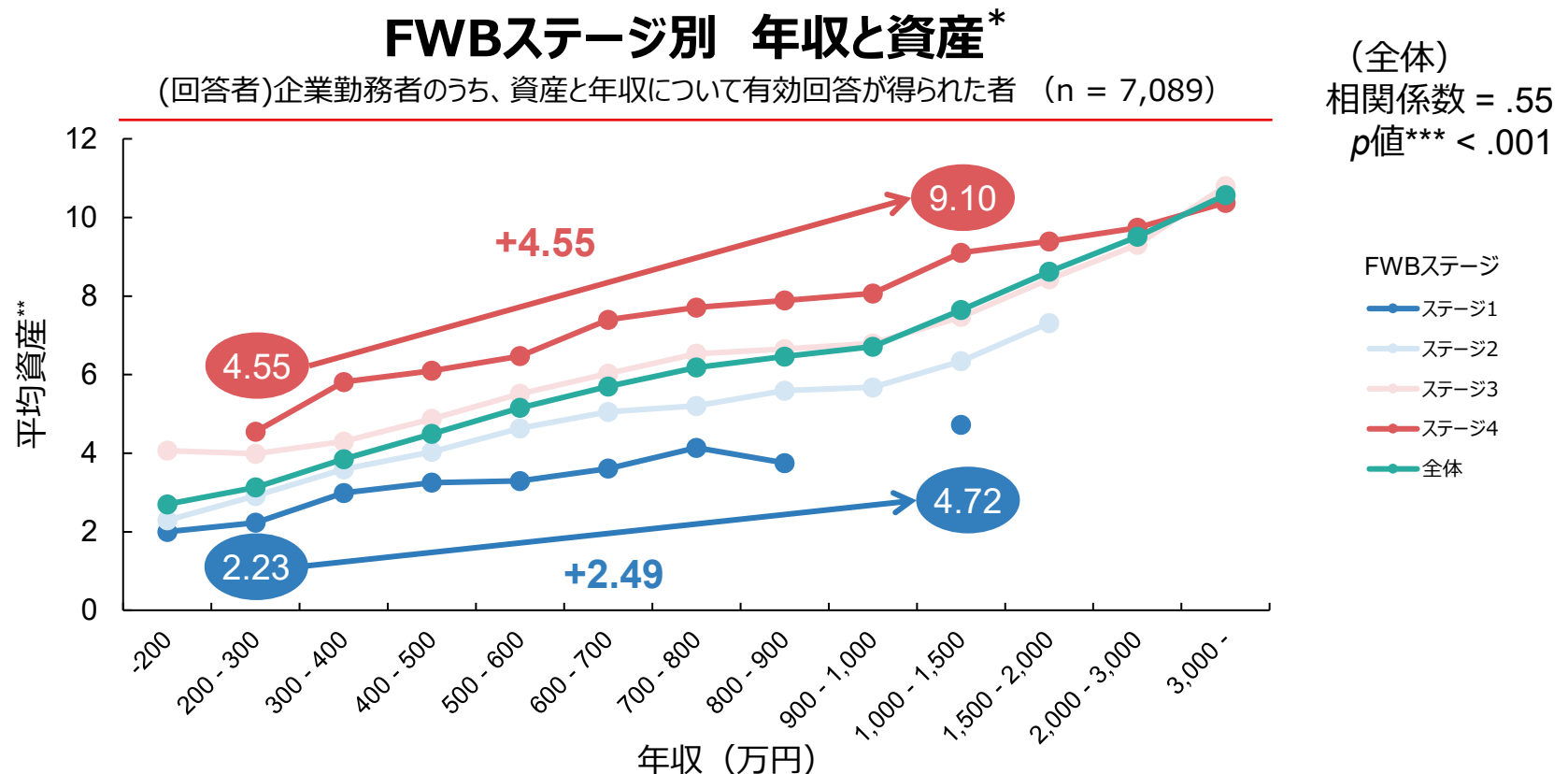
(回答者)企業勤務者のうち、資産と年収について有効回答が得られた者 (n = 7,089)



*資産と年収の各組合せのうち、該当サンプル数が10未満の組合せについては除外している

お金から見るFWBスコア④

- 当然ながら想定される年収と資産の相関関係にも、有意な関係が見られる(緑折れ線グラフ)
- 同じ年収に対して、FWBが高いと資産が多くなっている
- 年収が上がっていくと、FWBステージ毎の資産の開きが大きくなる
⇒ FWBが高いほど、収入からより多く資産に転換していることが推察される



*FWBステージと年収の各組合せのうち、該当サンプル数が10未満の組合せについては除外している

**金融資産保有額帯の回答番号 (1~11) の平均値。

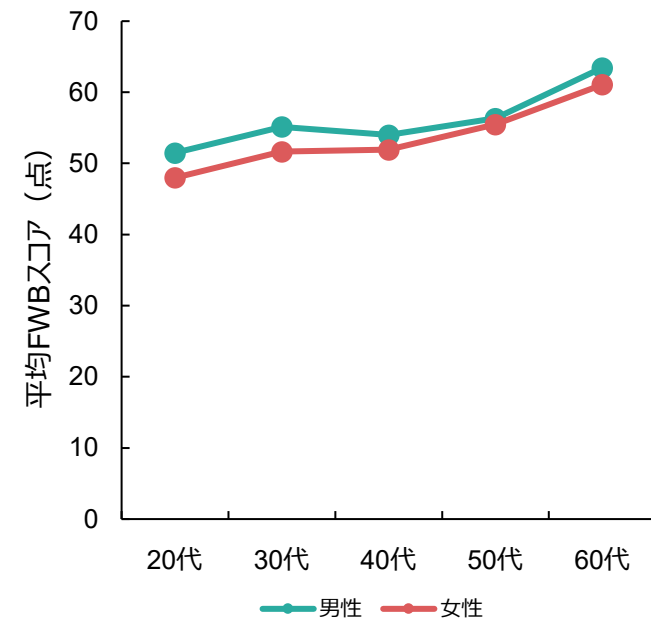
***「相関係数 = 0」と仮定したときに、該当の相関係数が偶然算出される確率。本研究では $p < .05$ を統計的に有意な結果であると解釈する。

属性から見るFWBスコア

- 年代と性別からFWBを分析する
- 20～50代ではFWBスコアはあまり変化せず、60代では増加している
- 若年層(20～30代)では、女性のFWBスコアはやや低い
⇒ 性別・年代別に見た資産の状況と似ている傾向

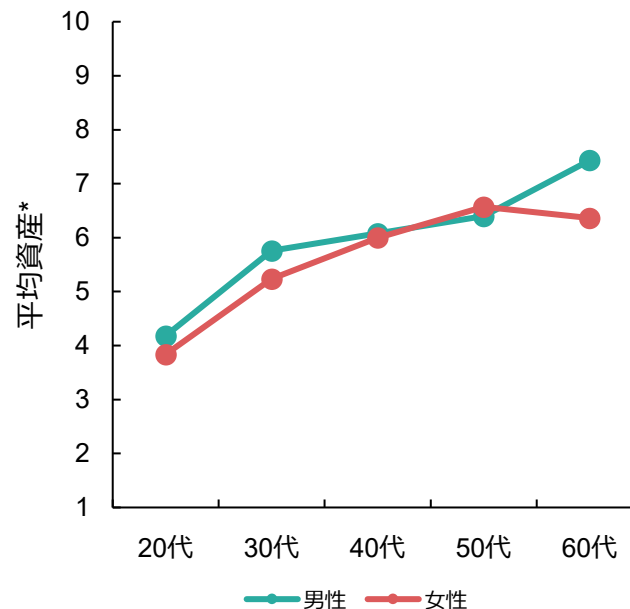
男女別 年代とFWBスコア

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)



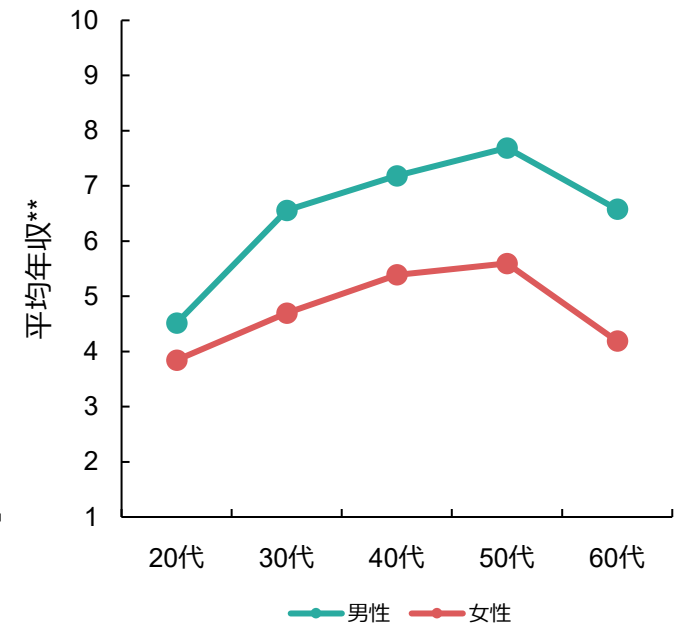
男女別 年代と資産

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)



男女別 年代と年収

(回答者)企業勤務者 (n = 8,500)

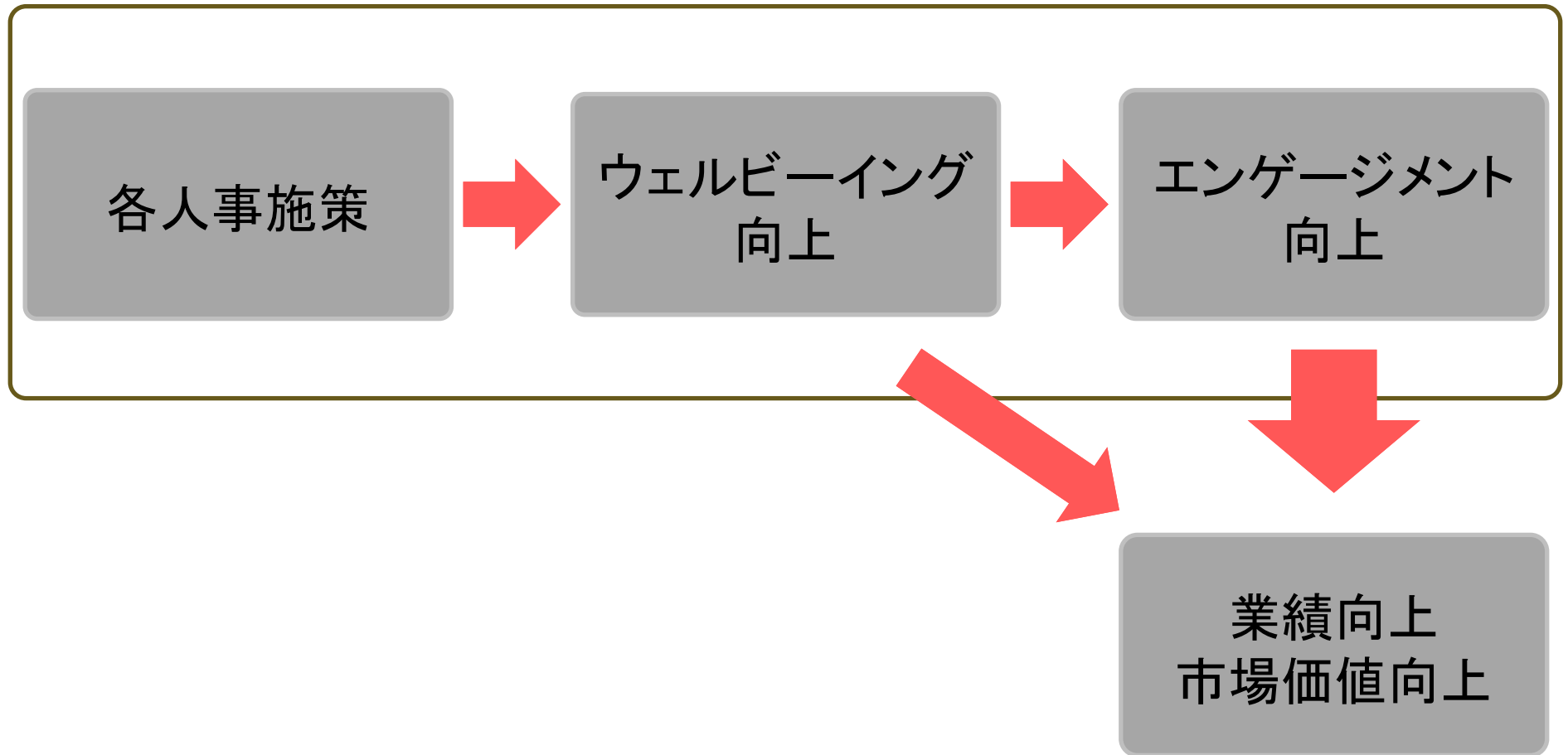


*金融資産保有額帯の回答番号の平均値。

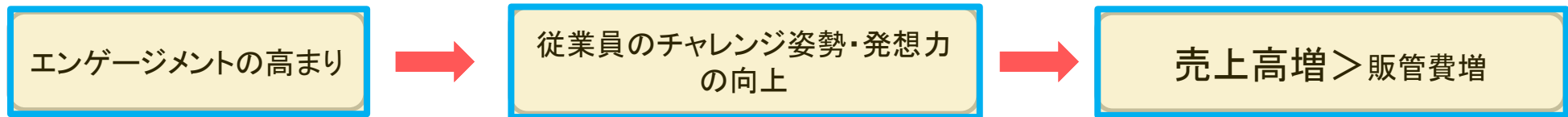
**個人年収帯の回答番号(1～13)の平均値。

Ⅱ. 人的資本経営との関係

ウェルビーイングと企業業績の連関イメージ

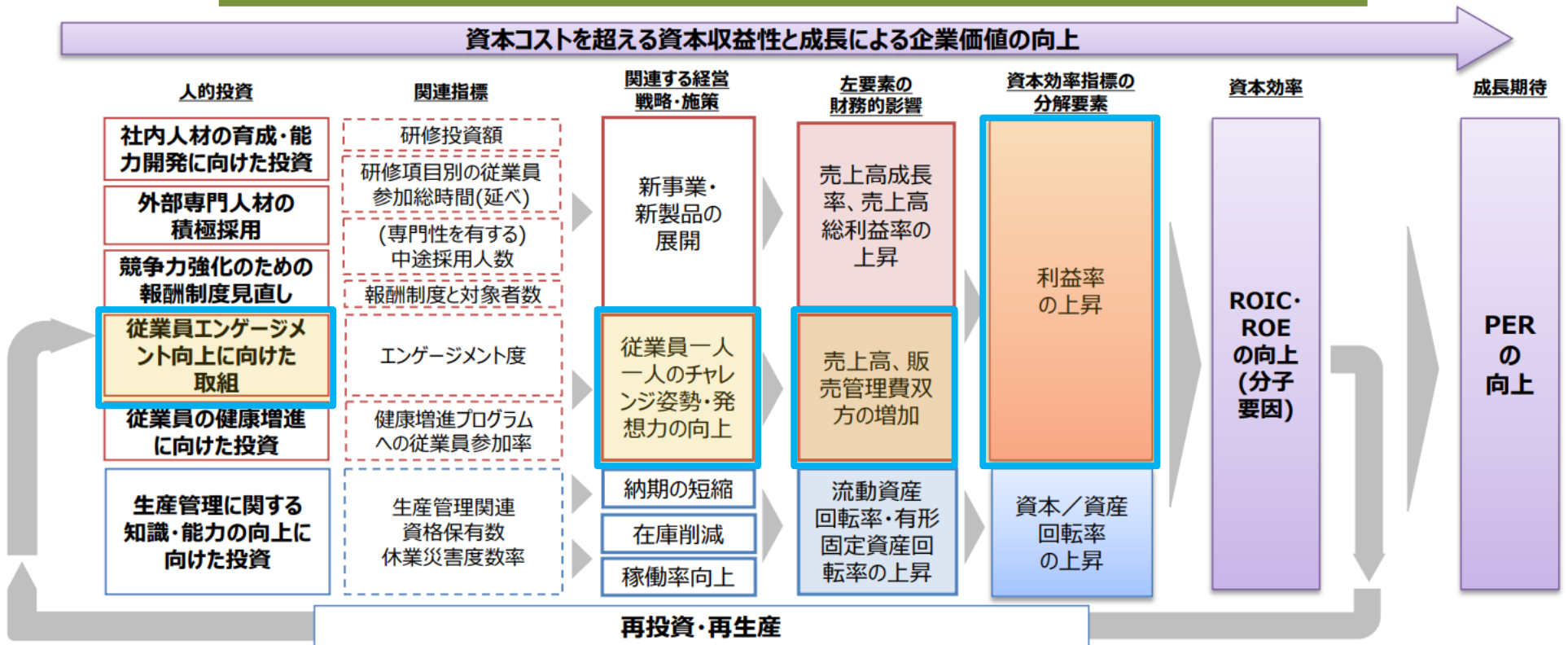


従業員エンゲージメントが利益率の上昇につながるイメージ



人的投資・経営戦略・資本効率・企業価値のつながり（例示的なイメージ図）

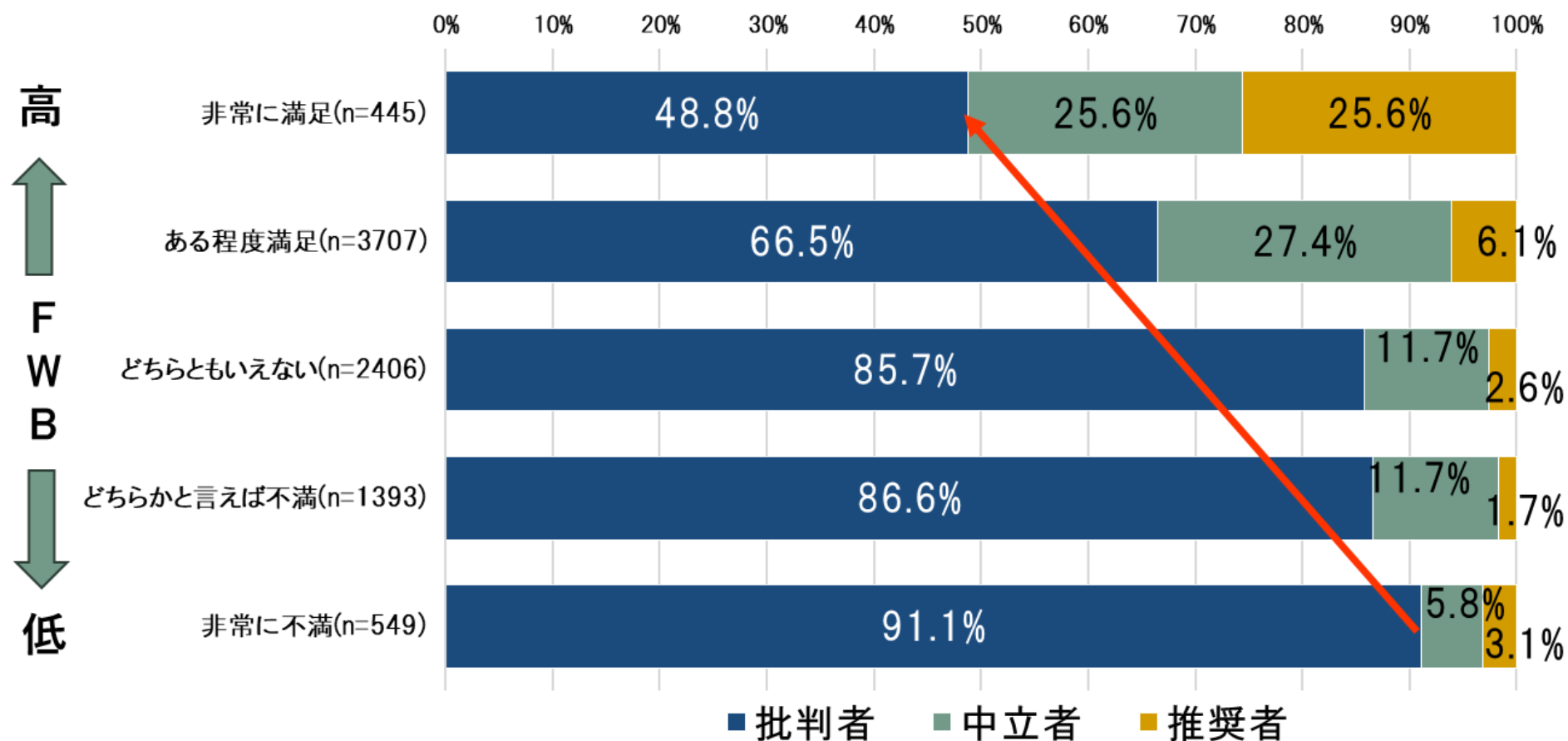
資本コストを超える資本収益性と成長による企業価値の向上



出所: [人的資本可視化指針](#) (非財務情報可視化研究 内閣官房) より

FWBと従業員エンゲージメントとの関係性

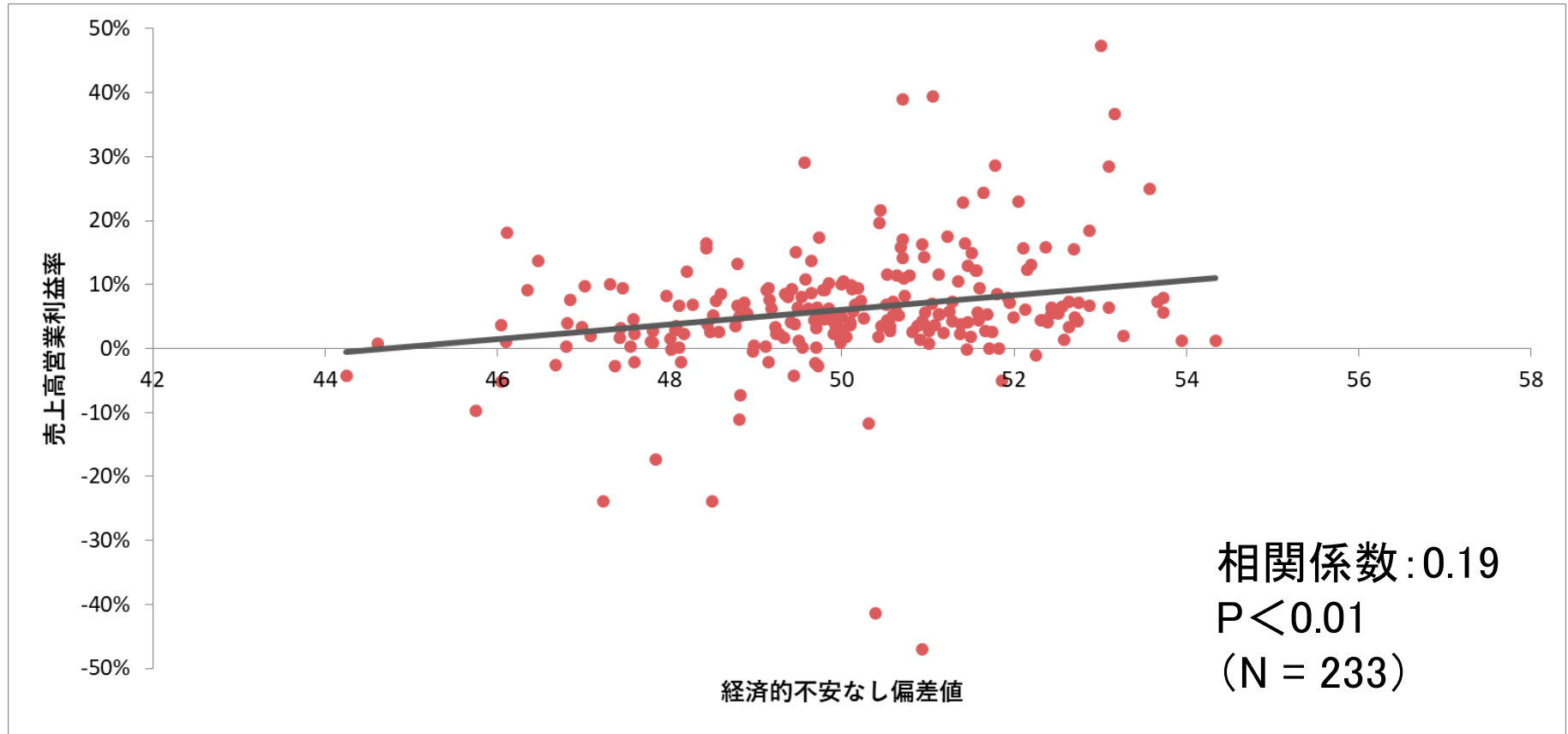
FWBスコアが高いほど職場推奨度(エンゲージメント)が高い



出所: [フィナンシャル・ウェルビーイングと金融リテラシーとの関係](#) (MUFG資産形成研究所) より

FWBと売上高営業利益率の関係

従業員のFWBスコアが高い企業ほど、売上高営業利益率が高くなる傾向あり



データの出典元

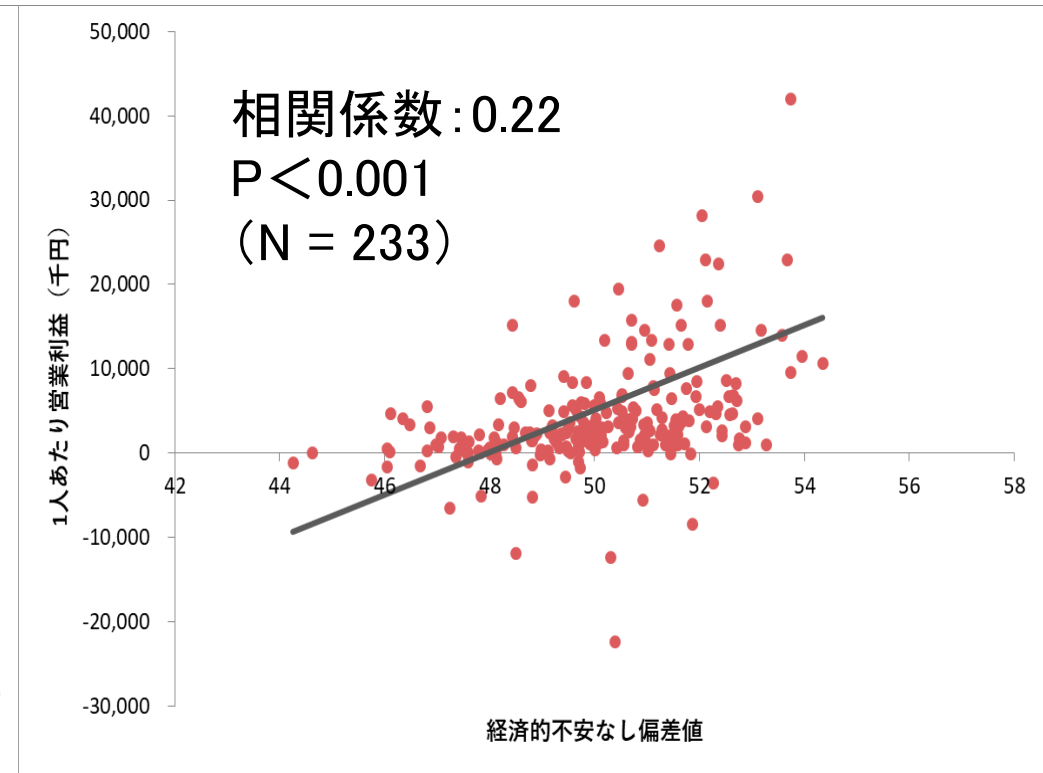
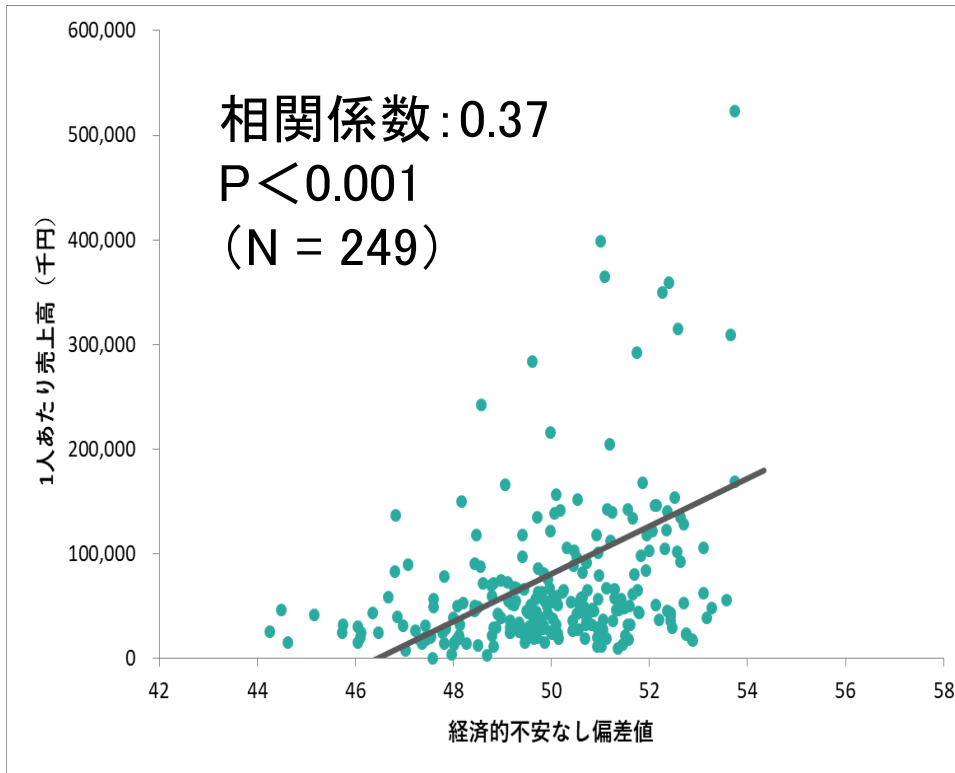
経済的不安なし偏差値: アドバンテッジ リスク マネジメント社が提供するストレスチェックサービス「アドバンテッジ タフネス」より、現在の経済的不安についての回答より。回答期間は2021/12~22/11

売上高営業利益率: 日本経済新聞社「日経NEEDS」より、調査年に対応する財務データを利用

(当調査はアドバンテッジ リスク マネジメント社との共同研究)

FWBと1人あたりの売上高、および売上高営業利益率の関係(参考値)

従業員のFWBスコアが高い企業ほど、1人あたりの売上高が高くなる傾向あり(相関0.37)
→ FWBが売り上げに貢献している可能性あり、その結果として営業利益率が向上か？



データの出典元

経済的不安なし偏差値: アドバンテッジ リスク マネジメント社が提供するストレスチェックサービス「アドバンテッジ タフネス」より、現在の経済的不安についての回答より。回答期間は2021/12~22/11

売上高および営業利益は日本経済新聞社「日経NEEDS」より、調査年に対応する財務データを利用、分母の人数については上記サービスの調査対象者数を使用
(当調査はアドバンテッジ リスク マネジメント社との共同研究)

ウェルビーイングにおける資産の重要性を確認

分野別満足度と生活満足度の関係(内閣府調査)

被説明変数:生活満足度

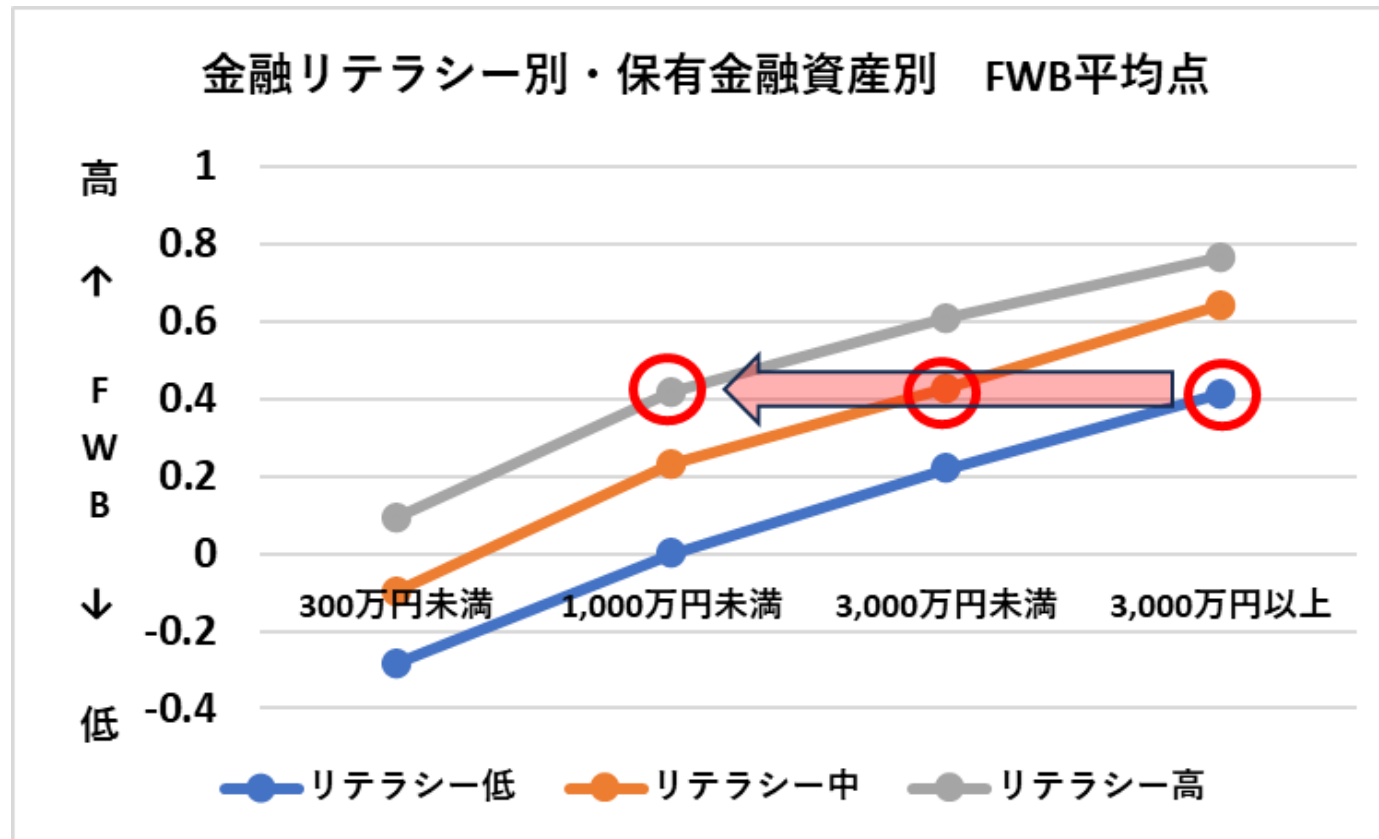
	全体	男性	女性
2位			
家計と資産	0.234 ***	0.223 ***	0.241 ***
小さい!			
雇用環境と賃金	0.030 **	0.076 ***	-0.005
住宅	0.082 ***	0.073 ***	0.089 ***
仕事と生活(ワークライフバランス)	0.081 ***	0.103 ***	0.063 ***
3位			
健康状態	0.128 ***	0.127 ***	0.130 ***
教育水準・教育環境	0.044 ***	0.045 ***	0.046 ***
交友関係やコミュニティなど社会とのつながり	0.061 ***	0.092 ***	0.023
政治・行政・裁判所への信頼性	-0.015	-0.008	-0.025 *
生活を取り巻く空気や水などの自然環境	-0.027 **	-0.024	-0.031 *
身の周りの安全	0.013	-0.002	0.035 *
子育てのしやすさ	0.035 ***	0.055 ***	0.016
介護のしやすさ・されやすさ	-0.085 ***	-0.106 ***	-0.065 ***
1位			
生活の楽しさ・面白さ	0.394 ***	0.350 ***	0.427 ***
定数項	0.488 ***	0.297 ***	0.686 ***
修正済み決定係数	0.637	0.654	0.624
サンプルサイズ	10633	5296	5337

(備考)***、**、*はそれぞれ0.5%、2.5%、5%で有意

出所:満足度・生活の質に関する調査報告書 2024(令和6年8月 内閣府)

FWBを高めるには金融リテラシーの引き上げに即効性がある可能性

FWBは金融資産に比例して高まるが、金融リテラシーにも比例して高まる

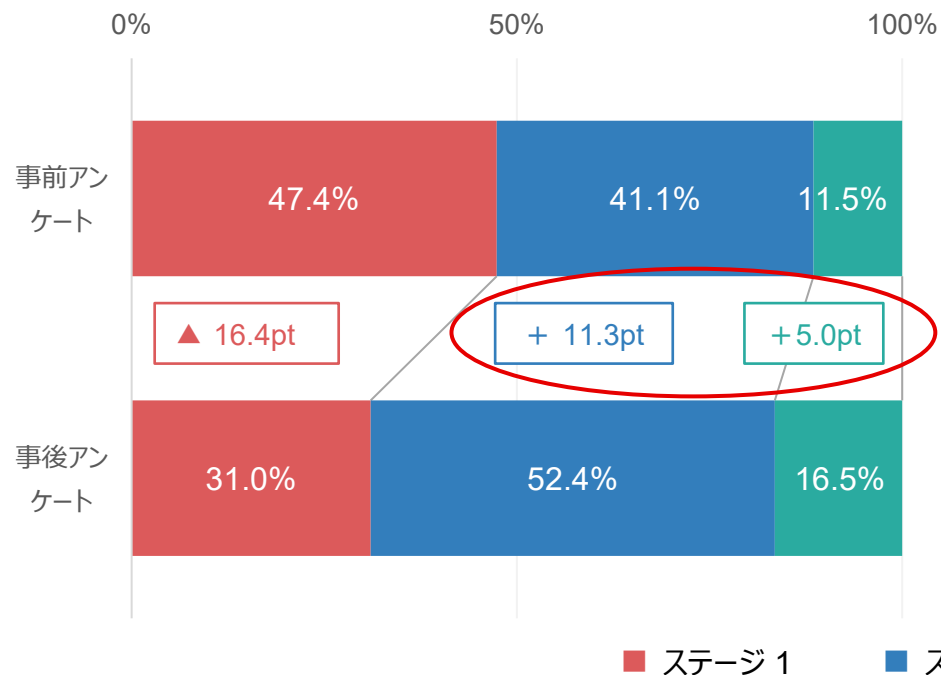


出所: [フィナンシャル・ウェルビーイングと金融リテラシーとの関係](#) (MUFG資産形成研究所)より作成

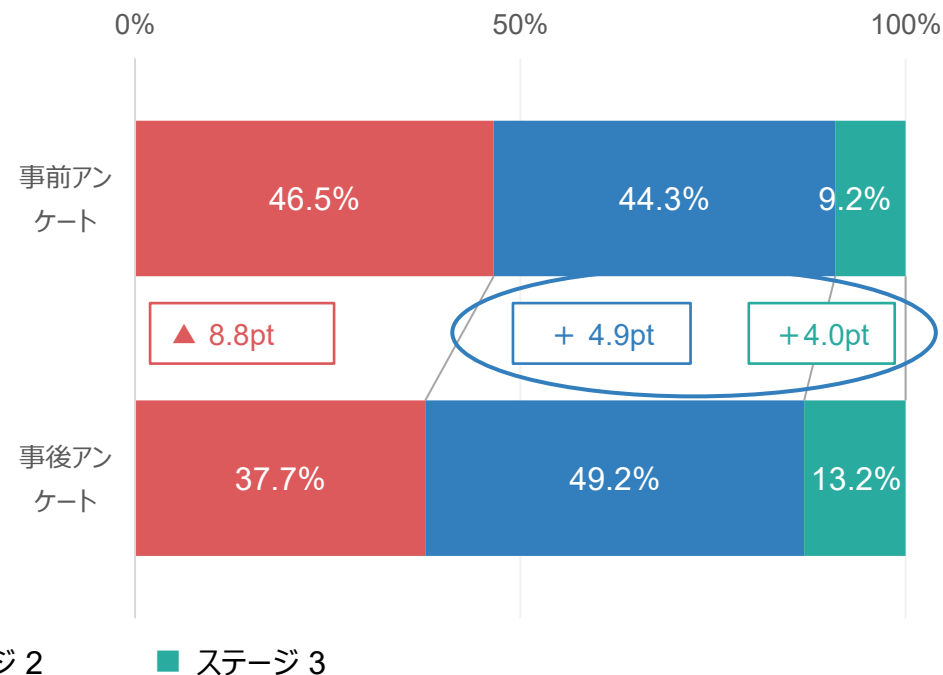
金融リテラシーの向上には金融経済教育が効果的 ～ A社の研修前後比較

- ・ A社が実施した金融経済に関する任意参加のセミナー、受講前後の金融リテラシーの状況について調査
- ・ 未受講者に対しても同様の調査を実施（調査期間：2023年1月～24年2月）

セミナー受講者



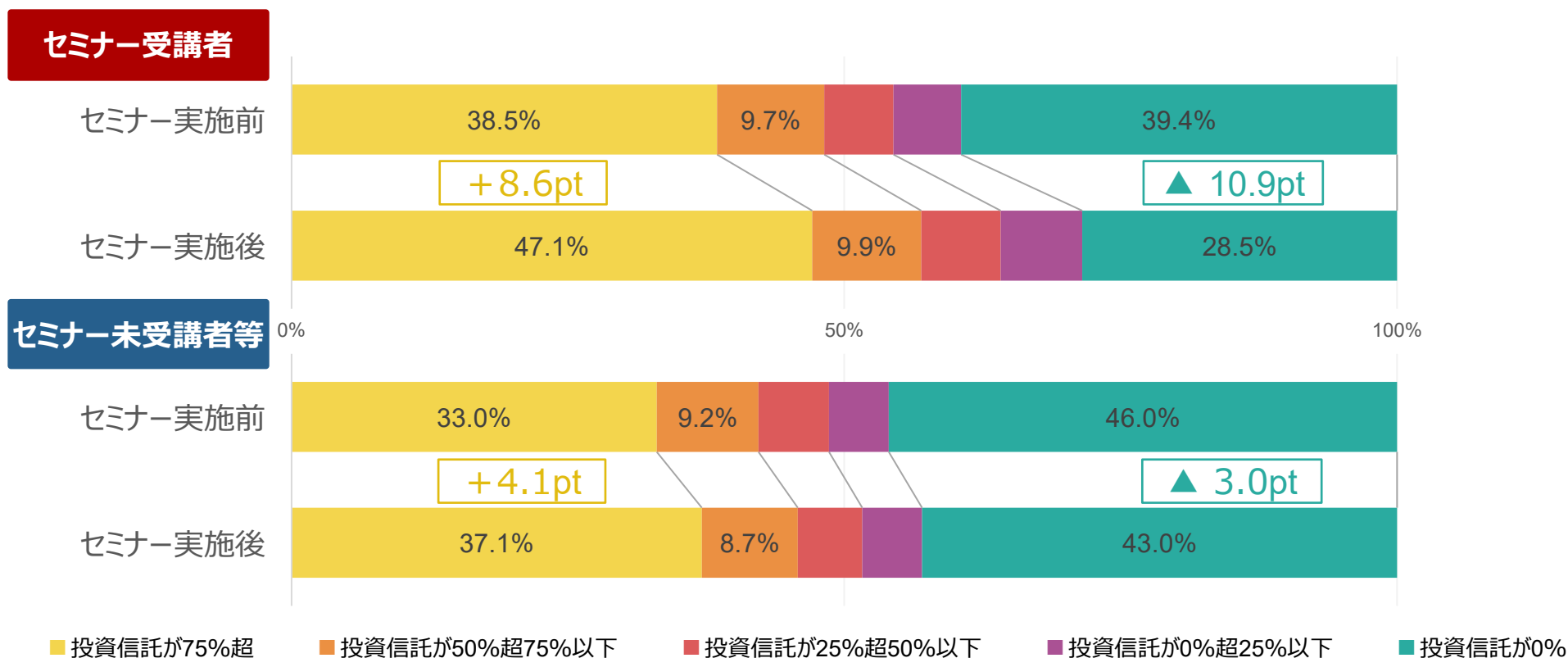
セミナー未受講者等



金融リテラシーステージを当研究所独自の算出方法により、低い方から1,2,3に分類したもの

セミナー受講者の行動変容が大きいことが確認 ～ A社の研修前後比較

- ・ A社では確定拠出年金が導入済み、セミナー前後で投資信託の保有状況の変化について調査
- ・ 投資信託が0%（元本確保型のみ保有）の割合がセミナー実施前後で10.9%pt減少（上段）
- ・ 一方でセミナー未受講者を同時期に調査したところ、変化率3.0%ptに止まる（下段）



ファイナンシャル・ウェルビーイングの基本特性

- 資産や収入とFWBの関係を見ると、資産の方がより密接な関係が見られた
- 収入は資産形成の土台となる重要な要素であるが、収入を増やすだけではなく、それを資産へと結びつけることがFWBには重要であることが推察される
- 年代や性別の違いにより見られるFWBの差異も、資産の違いが反映されている可能性がある

人的資本経営との関係

- 従業員のウェルビーイング、特にFWBはエンゲージメントおよび生産性に影響を与える可能性がある
- FWBは保有金融資産と相関があると考えられ、よって企業による資産形成支援策に合理性があるのではないか
- 保有金融資産の増加には時間がかかるが同様な効果が金融リテラシーの引き上げで得られる可能性がある
- 費用対効果で考えると、金融経済教育は金融リテラシーの向上につながるとともに、金融資産増につながる施策として、優先度の高い検討事項ではないかと考える

- MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が、現役世代から退職後の世代までを対象に資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を行う際の呼称です。
- 本資料は情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品の取得・勧誘を目的としたものではありません。
- 本資料に掲載の情報は作成時点のものです。また、本資料は三菱UFJ信託銀行が各種の信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性について保証するものではありません。
- 本資料に基づくお客さまの決定、行為、およびその結果について、三菱UFJ信託銀行は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客さまご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は三菱UFJ信託銀行の著作物であり、著作権法により保護されております。本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要です。三菱UFJ信託銀行までご連絡ください。

本資料に関するお問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 資産形成推進部

E-mail : mufg-sisan_post@tr.mufg.jp



三菱UFJ信託銀行株式会社
資産形成推進部

〒100-8212
東京都千代田区丸の内1-4-5

www.mufg.jp/shisan-ken/

MUFG資産形成研究所は、三菱UFJ信託銀行が資産形成・資産運用に関する調査・研究等の活動を対外的に行う際の呼称です。